

「真理愛好・個性尊重」と学術集会

総合リハビリテーション学会長

高見正利

今年、学校法人神戸学院は創立100周年を迎えました。記念式典では先達者の情熱とご苦勞をうかがい、感謝の気持ちに満たされました。

創設者森博士の座右の銘は「智者不惑、仁者不憂」だそうです。智者は道理をわきまえているので心に迷いが無い、仁者は徳に身をゆだねているので不安が無い、という孔子の言葉ですが、学問を通じて、広く深い人生観・世界観を培い、調和のとれた人間形成をめざすということですね。建学の精神「真理愛好・個性尊重」の謂れです。

真理は場面により表情が異なってきます。ですから、勉強や研究の成果は議論によって確認することが大事であり、議論によって鍛えられ理解が深化します。その恰好の場がこの学術集会であります。学術集会はシンポジウムとも言われます。ギリシャ語の「Symposion」からきているそうです。プラトンの「饗宴」という名の本がありますが、原題が「Symposion」です。紀元前416年のアテネで悲劇のコンクールがあり、優勝者の祝宴で参加者が順に恋の神を賛美する演説を行いました。発表練習もして議論に臨み、考えを磨きました。プラトンは「Symposionに集まれば、くだらない子供じみたことをせずに、話をしたり聞いたりして十分楽しめ、たくさんワインを飲んでも礼儀を失わずにいることができる」と述べたそうです。

個性については、統計の講義中に思い当たることがありました。統計分析は違いや効果、関連性を見つけたいときに行われるのですが、経験の中から価値ある情報を論理的に取り出します。方法は、散らばりの程度である分散や標準偏差というものを計算し、これがどの原因で起きているかを確率で判断します。散らばりが無いと情報は見つけられません。個性豊かということは、個人は平均から離れ、集団としては散らばるということであり、多くの情報を持ちます。社会の発展や個人の成長のためには、多様な個性とそこからくる刺激が必要です。学問を通じて大いに個性を伸ばしましょう。「真理愛好・個性尊重」、深みのある理念ですね。